

2020（令和2）年度
推薦入試
卒業生子女・弟妹入試
〔外国語学部〕
小論文問題

注意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は六〇分である。
- 2 黒色鉛筆を使用すること。
- 3 解答用紙の所定欄に、氏名・受験番号を記入すること。
- 4 縦書きにすること。
- 5 下書きには、この用紙の余白を使用すること。
- 6 書き損じても、解答用紙は再交付しない。
- 7 この用紙は、試験終了後に回収しない。

解答要領

解答は問題文中の設問の指示に従って、解答欄に適切に書くこと。
なお、句読点・かっこなども字数に加える。また、段落の初めの空きや、段落の終わりの行にできた空きも、書いてあるものとみなし、字数に加える。

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

トレードマークのアフロヘアにすっぴんの稲垣さんは、さっぱりとした表情で話し始めた。「共働きが増え、台所に立つ女性の負担は限界点に達していると思うんです。食べることに悩み、料理することに苦しんでいる。仕事と家事で時間がないのに、周りはSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）ですてきな食卓を紹介しているから、手作りしないと後ろめたくなる。追い詰められて配食や家事代行サービスに頼る前に、自分の手で最低限の食事を作るという選択肢もあると言いたいです」

稲垣さんも実践する「一汁一菜」スタイルは近年、料理研究家の土井善晴さんが提案したことでその価値が再評価された。その考えに同調する私だが、晩ごはんはシウガ焼きやシチューを食べたいという欲求を禁じ得ない。「断捨離している人もよく食は別と言います。極上の肉とかインスタ映えるスイーツといった情報があふれる中で、みんな何を食えば満足なのか考える余裕もない。食べたいものを自分で作る食事はちつともみじめじゃない。毎日食べて飽きない味は十分豊かです」

稲垣さんのエッセーは献立に悩まない料理哲学をつづったもので、実際に食べた1年間の料理を紹介する新刊「アフロえみ子の四季の食卓」も書き下ろした。稲垣さんには素朴な疑問がある。「人生最後に何が食べたいかと聞かれて、ステーキと答える人はあまりいませんよね。卵かけご飯とか、素朴なものを挙げる人が多い。そんなに好きなら後回しにせずに、なんでもっと早く食べないの？ 私はそういうものを毎日食べているから、大満足です」

（2018年10月10日 毎日新聞 東京夕刊「特集ワイド」から抜粋）

問一 この文章に、適切なタイトルを15字以内でつけなさい。

問二 この文章を読んで、あなたの考えを601字以上800字以内で述べなさい。